《入選》

差別について

稲枝中学校　３年
室井（むろい）　美優（みゆ）　さん

私たちの周りにはたくさんの差別と偏見がある。例えば障がい者差別や男女差別、人種差別だ。多くの人が差別はとても悪いことであり、絶対にしてはならないことだと分かっているはずだ。しかし、差別はまだたくさん残っている。正しい知識を身につけ、差別に気づき、差別を無くすために私は色々な人に話を聞いたり、人権学習をしたりしている。そして、私は二つの差別についてもっと知りその差別を無くすために行動したいと思っている。

一つ目は男女差別だ。男女雇用機会均等法が定められ、性別による就職差別は今はあまり見られない。しかし、性別の偏見はまだまだ残っている。例えば、制服だ。男子でセーラー服を着ている人は見かけないし、女子で学ランを着ている人も見かけない。女子の制服はスカートで男子の制服はズボンという考えはまだ残っている。そういう考え方は無くして、女子もズボンがはけて、男女の区別をつけないような制服を、偏見を無くすために作ってほしいと思う。また、他にも性別での偏見がある。それは、育児や料理などの家事をするのが女性だという考え方だ。ほとんどの家庭で、男性より女性のほうが多く家事をしていると思う。総務省の調査でも、夫より妻の育児時間のほうが圧倒的に長いことが分かった。今は専業主婦は多くない。昔とは違い女性も男性と同じように外へ出て働いているのだから、男性も女性と同じぐらい家事をするべきだと考える。私の家では、家族で家事を分担しているのだが、やはり母が皆より多く家事をしているので改善していきたい。このような不平等を無くして本当に男女が平等になるようにしたいと思う。

より知って、無くしたいと思った二つ目の差別は部落差別だ。私が部落差別を知ったのは中学生になってからだ。中学校の人権学習をするまで、私は部落差別があることすら知らなかった。しかし、部落差別はずっと昔から存在している。昔、死や出血などの通常とは異なる事態に関わることをケガレと呼んでいた。ケガレにふれたり、元の状態にもどす仕事をしている人は河原者と呼ばれており、おそれられ、差別されていた。しかし、この人達は庭園造りなど文化的なことなどにも高度な技術をもっていた。実際に、杉田玄白が解体新書を書くために解剖に立ち会ったが、解剖をした人は差別されていた人だったそうだ。こんなにすごい人達が差別されていて、今もなお、その差別が残っていることがとても悲しい。

少しでも差別が無くなるように、人とのちがいを認め、相手の立場になったときのことを考えながら行動したい。そうすることで差別が無くなるための第一歩になると思う。だから、周りに流されずに自分が正しいと思うことを曲げずにこれから生活していきたい。